

## テサロニケ第二1章6-9節 「悪に報いる方」

### 1A 憐れみ深い正しい方

1B 正義と憐れみ

2B 虐げられた者を救われる方

### 2A 正しさへの訴え

1B 正しい者の苦しみ

2B 義のゆえの迫害

3B 復讐する神

### 3A 忍耐される方

1B 悔い改め

2B 正しさの明示

### 4A 報復による慰め

1B 天における報い

2B 地における苦しみ

3B 天地における癒し

## 本文

テサロニケ人への手紙第二1章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、前回、テサロニケ人への第一の手紙を読み終えました。第二の手紙に入りますが、午後に1章を一節ずつ読みます。今朝は、6-9節に注目します。「<sup>6</sup> 神にとって正しいことは、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、<sup>7</sup> 苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えることです。このことは、主イエスが、燃える炎の中に、力ある御使いたちとともに天から現れるときに起こります。<sup>8</sup> 主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に罰を与えられます。<sup>9</sup> そのような者たちは、永遠の滅びという刑罰を受け、主の御前から、そして、その御力の栄光から退けられることとなります。」

テサロニケ人への第二の手紙は、新しく信じたばかりの彼らが、迫害と苦しみの中にいることから、パウロは話し始めます。第一の手紙では、パウロは、彼らが、そのような圧迫の中にも、それで聖霊の喜びをもって、みことばを受け入れたことを話しました。第二の手紙では、そのような圧迫を与える者たちが、正しい裁きを受けることを語っています。主イエスがこの世に戻って来られる時に、これら苦しめた者たちに対して苦しみを与えます。主は再び来られる時、燃える炎の中に現れます。そして、そのような者たちに、永遠の滅びの刑罰に下します。

今朝は、人々が避けがちな話題、神の復讐または報復について見ていきます。復讐、また報復という、私たちは何かそのまま悪いことのように聞こえますね。自分に嫌なことをしてきた奴を恨んで、そいつをとっめたいと思って、仕返しをするという意味合いで、復讐という言葉を使います。聖書には、敵を呪うのではなく、愛して祝福しなさいというイエス様の言葉を見ます。ですから、復讐や報復という、そういったものは神のご性質に合わないと思います。しかし、聖書全体を冷静に見るならば、実に数多くのところで神が復讐する方であることが明らかにされています。先ほど読んだ詩篇でも、著者はこのように訴えていましたね。「94:1-2 復讐の神、主よ。復讐の神よ、光を放ってください。地をさばく方よ、立ち上がってください。高ぶる者に報復してください。」憐れみ深いはずの神が、どうして、このように復讐をされる方なのか？神のその働きが、どのように私たちに関わるのかを、じっくりと見ていきたいと思えます。

ところで、みなさんは生きている中で、あまりもの不条理や不正を見聞きして、心の中でどう整理すればよいか分からないことがあったかと思えます。なぜ、こんな悪を人が行うことができるのだろうか？あまりにも残酷で、心の中に留めておくことはできない、という衝撃を受けると思えます。

私たち夫婦は、あるクリスチャンとの会話で、古代中国の三大悪女の一人として知られる、呂雉(りよち)という人のしたことを言及しました。猟奇的殺人を犯しました。夫・劉邦が死んでから、妾であった戚(せき)夫人を豚小屋に入れます。当時の豚小屋は、トイレの下に作られていて、豚が糞尿を餌にしていたのです。その後、呂雉は、彼女の両手両足を切り落としました。次に目をくりぬきました。それから耳を落とします。そして薬で喉を潰します。その状態で、彼女を豚小屋の中に捨て置いたのです。そして、「人豚」と呼びました。周囲の者たちは凍り付いている中でも、自分は笑い転げて喜びました。聞いたことが、あまりにも堪えがたいと思った彼は、こういったのです。「その悪を行った者を、神は同じ苦しみで裁かれる。」それで、すべてが消え去るかのように、彼だけでなく、私たち二人の心に深い安堵が来しました。

主は、人の行う悪に対して報復をされるというのは、実は恐ろしいことではなく、その正しさの中で深い安息を得られることなのです。7 節にあるように、「**苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えることです。**」罪が世界に入って以来、世界に罪と不正がはびこっていて、キリスト者もその悪の犠牲者となっています。その中で、神は確かに正しく裁かれる方であることを知ることは、私たちが希望を失わないで生きられる源泉となるのです。

## 1A 憐れみ深い正しい方

### 1B 正義と憐れみ

私たちの中で、誤った神概念があります。いや、神についての、誤った会話があります。「神は愛の神だ。しかし、神は正義の神でもある。」あたかも、神は憐れみ深いか、正しいかのどちらかであるかというような言い方をします。では、神が正しい裁きを行われる時に、それは憐れみからか

け離れたことなのか？という疑問が出てくるのです。ある時に、神は愛に満ち溢れていて、御怒りを示す時は、愛を一時的に退けているかのように話すのです。

イエス様は、憐れみと正義を分けて語られませんでした。パリサイ人があまりにも細かいことまで、十分の一を納めようとしていることについて、「マタイ 23:23 律法の中ではるかに重要なもの、正義とあわれみと誠実をおそろかにしている。」と言われました。正義と憐れみ、と言われている。正義を行うことが、憐れみを行うことなのです。イザヤ書の中で、主はこう言われました。「58:6-7 わたしの好む断食とはこれではないか。悪の束縛を解き、くびきの縄目をほどこき、虐げられた者たちを自由の身とし、すべてのくびきを砕くことではないか。飢えた者にあなたのパンを分け与え、家のない貧しい人々を家に入れ、裸の人を見てこれに着せ、あなたの肉親を顧みることではないか。」ここで、悪の束縛を解くことが、虐げられている人、困っている人、苦しんでいる人への憐れみといっしょに語っておられるのです。

イエスご自身の十字架のみわざを見てください。この方のしたことは、神の正しさを示していました。それだけでなく、神の憐れみを示していました。神の罪に対する御怒りが現れており、それから私たちを救う憐れみが示されています。正義と憐れみを神は切り離していないのです。主が、モーセにご自分の御名を示された時にも、憐れみ深く、かつ罪を罰する方であることを同時に語られています。「出 34:6-7 【主】は彼の前を通り過ぎるとき、こう宣言された。「【主】、【主】は、あわれみ深く、情け深い神。怒るのに遅く、恵みとまことに富み、恵みを千代まで保ち、咎と背きと罪を赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰して、父の咎を子に、さらに子の子に、三代、四代に報いる者である。」このように、憐れみに満ちておられる方であり、かつ正しい方なのです。

「正義」という言葉は、元々、「あるべきところに、存在する」という意味があります。例えば、富があるべきところに存在する、ということです。極端に貧しい人がいる時は、財のある人が分け与えるのが正しいこととなります。名誉や栄光があるべきところにある、ということでは、大きな功績を残した人が評価されない時に、評価されるようにあつたら、正しいことをしたこととなります。正しいは「真っ直ぐにする」という意味合いがあり、曲がったもの、歪んだものをまっすぐにする時、それが正しい、ということとなります。私たち日本人は、正しいというと、正解を出すというように教育されていますね。それで、間違っていない正確な模範的の回答を出せるクリスチャンが、正しいクリスチャン、霊的なクリスチャンということになりますが、そうではありません。今、言いましたように、善を行うことや憐れみの行いをする事と、その人の正しさは直結しているのです。

## 2B 虐げられた者を救われる方

それで、神は、虐げられた人のために正しい裁きを下すことによって、その人を救うお働きをされます。ちょうど王が、虐げられている人のために裁きの席に着き、その虐げている人に厳しく罰して、その人が奪い取った物を返済するように命じたりします。そうやって正しい裁きを下すことによ

って、憐れみを示し、救い出すのです。

私たちの社会は、時代を経てかなり洗練されています。つまり、当時、聖書時代であれば、貴族や王族にいるような人たちしか持っていなかった特権を、一般の人々が持っているような状態です。私たちが今、当たり前持っている自由や権利は、当時はごく一部の特権階級の人たちしか与えられていなかったのです。一般の人々は、人権も自由も全くない、過酷な状況に置かれていました。例えば、もし、自分がやもめになったら、福祉はないですし、仕事も女だとほとんどできませんから、ほとんどホームレス状態になってしまいます。そういった窮状にいる人々を、むしろ担保を取ったりして、自分の私腹を肥やすためにむしり取るような人たちがいたら、どうでしょうか？正しい王であれば、激しく怒り、そのような者に厳しい罰を与えます。

主は、そのような正しい王として、次のように御怒りを現わされます。「出 22:21-24 寄留者を苦しめてはならない。虐げてはならない。あなたがたもエジプトの地で寄留の民だったからである。やもめ、みなしごはみな、苦しめてはならない。もしも、あなたがその人たちを苦しめ、彼らがわたしに向かって切に叫ぶことがあれば、わたしは必ず彼らの叫びを聞き入れる。そして、わたしの怒りは燃え上がり、わたしは剣によってあなたがたを殺す。あなたがたの妻はやもめとなり、あなたがたの子どもはみなしごとなる。」このように、与えた苦しみにふさわしい痛みを与えることによって、正しい裁きを行われます。そして、その正しい裁きによって、苦しめられている人たちが救われ、また慰めを受けるのです。

今、読んだように、イスラエルの民はエジプトで寄留者として苦しめられていました。正しい主は、彼らの、うめき、泣き叫びを聞かれました。「2:23 それから何年もたって、エジプトの王は死んだ。イスラエルの子らは重い労働にうめき、泣き叫んだ。重い労働による彼らの叫びは神に届いた。」それで、主はモーセをファラオのところに遣わされます。そして、エジプトに災いを下されるのです。その御怒りによって、イスラエルはエジプトから救い出されたのです。

同じように、私たちはすべて、霊的な勢力に支配されて、罪の奴隷とされていました。そこから、主はご自身が死なれ、三日目によみがえられることによって、サタンを打ち砕かれ、私たちが罪の中から救い出されたのです。「コロ 2:13-15 背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。」主は、私たちが愛し、憐れむために、苦しめ、虐げる悪の勢力のしわざを打ち砕かれ、サタンも悪霊どもも永遠の火の中に投げ入れられるのです。

## 2A 正しさへの訴え

ですから、主が報復される方ということが、いかに憐れみと愛から出ていることなのかが、ご理解できたのではないのでしょうか？

### 1B 正しい者の苦しみ

私たちは、この世にあって、だれもがもたえ苦しんでいます。それは、正義が実現していないということに対する悶え苦しみです。正しく生きている者が、どうして悪に対する報いであるはずの苦しみを受けなければいけないのか？というの、大きな疑問です。ヨブの苦しみが、まさにその苦しみ悶えを言い表していました。主を恐れるヨブが、たちまち災難の中に陥ったのです。彼は、生まれた日を呪いました。もし、このような目に遭うならば、生まれてこなかったほうがまだと思ったのです。

彼は、苦しみの中から正しさを求めました。自分と神との仲裁をしてくれるものはいないのか？と。「9:33 私たち二人の上に手を置く仲裁者が、私たちの間にはいません。」もちろん、それは神が人となった仲介者、キリストを求める叫びです。そして、彼は苦しみ悶えているのに、いきなり終わりの日に報われることを宣言しました。「19:25-26 私は知っている。私を贖う方は生きておられ、ついには、土のちりの上に立たれることを。私の皮がこのように剥ぎ取られた後に、私は私の肉から神を見る。」これは、主が再臨され、キリストにある者がよみがえることを預言しているものです。正しさが必ず報われることを叫んでいます。

道理で、イエス様がラザロをよみがえらせる時に、人々が悲しんでいるのを見て、涙を流され、心に憤りを抱いているのかがわかります。人が死ぬという不条理に対して怒っておられました。これはあってはならないことだからです。死は最後の敵であると、コリント第一 15 章にあります。ですから、「ラザロよ、出て来なさい。」と大声で叫ばれたのです。彼らを愛されていたので、死に対して滅びを宣言されました。

### 2B 義のゆえの迫害

正しさが報われないというのは、一般的にも人々に悶え苦しみをもたらします。キリスト者であれば、なおのこと熾烈になります。イエス様は、そのことをはっきりと、山上の説教で教えられました。八つの幸いを説かれました。心の貧しい者、悲しむ者、柔和な者。世においては低められている者になっています。そして義に飢え渴く者、憐れむ者、心の清い者、平和を造る者です。このような特質を持っていても、世においては報われません。さらに、義のゆえに迫害されるのです。しかし、報いがあると、イエス様は言われました。「マタ 5:10-12 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。大いに喜びなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々

は同じように迫害したのです。」

主、また主に倣う使徒たちも、何度となく、敬虔に生きようとするならば迫害を受けることを教えられました。主のために、また福音のゆえに生きるならば、いのちを失うことさえあると言われました。ただ、そのことを語られるだけでなく、報いはあるという約束もします。死んでも生きるという約束があります。いのちを失う者は、むしろ、それを救うことも約束されました。キリストご自身の生涯に、正しさが報われることが証しされていました。主は、律法の義を満たされました。しかし、十字架につけられました。罪なき方が、罪人とみなされて死なれました。無念であります。これほどの不条理はありません。絶望しかありません。しかし、神はこの聖なる方を陰府の中に留めおくことはなさらなかったのです。この方が確かに正しいことを、死からよみがえらせることによって明らかにされました。死というものに鉄槌を下されたのです。この方は正しいので、死の中に留まることはありえなかったのです。

### 3B 復讐する神

ですから、私たちは、不条理を見るだけでも心がもたえ苦しみます。正しさが明らかにされないからです。キリスト者であればなおのこと、報われないことを経験します。それゆえ、主が正しく裁かれるということ、復讐されるということを知っていることは、私たちが惜し潰れることなく、支えくれるのです。本文においては、神を知らない者、福音に従わない者に罰が与えられることが書かれていますが、続きを見てください、10 節です。「その日にイエスは来て、ご自分の聖徒たちの間であがめられ、信じたすべての者たちの間で感嘆的となられます。」福音に従わない者にとっては滅びですが、聖徒たちの間では感嘆的となるのです。

黙示録では、復讐を求める聖徒たちの声を多く聞くことができます。「黙 6:9-10 子羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てた証しのゆえに殺された者たちのたましいが、祭壇の下にいるのを見た。彼らは大声で叫んだ。「聖なるまことの主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者たちに私たちの血の復讐をなさないのですか。」」これは、恨みつらみではなく、正しい方が報いをされることを願う、自分たちの存在に関わる叫びです。そして、天において、世で悪が裁かれた時に、彼らは大歓声を挙げるのです。多くの預言者や聖徒たちの血を流した大バビロンが滅んだ時に、大群衆の声がありました。「19:1-2 ハレルヤ。救いと栄光と力は私たちの神のもの。神のさばきは真実で正しいからである。神は、淫行で地を腐敗させた大淫婦をさばき、ご自分のしもべたちの血の報復を彼女にされた。」

### 3A 忍耐される方

#### 1B 悔い改め

けれども、なぜ神はすぐに正しい裁きを下すことはないのでしょうか？その一つは、主は悪者がご自身に立ち返って、生きることができるようにするためです。私たちも悪の中にいたのに、神の

忍耐で滅ぼされず、悔い改めて救われました。「Ⅱペテ 3:9 主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」

## 2B 正しさの明示

そして、もう一つ、主がすぐに裁かれないことには、大きな目的があります。それは、ご自身のさばきが正しいことが明々白々になるためです。主が裁かれても、だれが見てもそれは正しい裁きだと分かるようにするためです。イエス様が、天の御国の奥義の喩えで、畑に毒麦がまかれた時のことを語られました。そして、毒麦だったので主人のしもべたちは、抜き集めましょうか？と言いました。しかし主人は、「いや。毒麦を抜き集めるうちに麦も一緒に抜き取るかもしれない。」と言いました。収穫まで両方とも育つままにしておきなさい。」と言います。収穫の時は毒麦なのか麦なのか明らかなので、それで主の裁きの正しさが明らかにされるのです。(マタイ 13:24-30)

黙示録 14 章において、主が再臨される時に、収穫のため鎌を入れる御使いに、「地の穀物は実っている。」との声がありました。また、「ぶどうはすでに熟している。」という声もありました。これはどちらも、実りすぎていて、ここで刈り取らなかつたらだめになってしまう、という意味合いがあります。悪い行いが、あまりにも明らかになっていることを示していて、神が確かに正しい裁きをしておられることが、公正明大に分かるのです。

## 4A 報復による慰め

### 1B 天における報い

このようにして、主は必ず悪に報いてくださる方です。イエス様が、天において報いがあるということ、父なる神が報いてくださることを何度となく語られました。黙示録でも、天で報いを受けている聖徒たちの姿があります。

### 2B 地における苦しみ

そして主は、ご自分の御怒りを下される時に、地上に下すのです。天においては歓声があり、地においては嘆きがあり、わめきがあり、神への冒瀆があります。悪魔が最後のあがきをして、暴れ、人々が怒りに満ちます。しかし、主はその悪あがきを、地上への再臨によって鎮められるのです。

### 3B 一つになった天地における癒し

最後に天そのものが降りてきます。天のエルサレムが、新しい地に降りてきます。天と地が一つになります。その時に癒しが起こります。天のおける報いがあり、すべての悪が裁かれて永遠の火に投げ入れられています。新しい地に天が降りて一つになります。そこにはとこしえの癒しがあります。「黙 22:1-2 使いはまた、水晶のように輝く、いのちの水の川を私に見せた。川は神と子羊

の御座から出て、都の大通りの中央を流れていた。こちら側にも、あちら側にも、十二の実をならせるいのちの木があって、毎月一つの実を結んでいた。その木の葉は諸国の民を癒やした。」

ある人がこう言いました。「心が癒されるためには、時間を逆に変えるとよい。人間は、時間は過去、現在、未来に流れると考えている。しかし、それを逆にするがよい、将来から現在を見るのだ。そして、過去にまでそれを流す。そうすると過去が過ぎ去る。」私たちは、過去の傷を現在にまで持ち出して生きてしまいますが、そうすると流れが詰まってよどんでしまいます。そうではなく、将来の希望を見ます。そこでは悪がすべて裁かれています。そこから、今を見ます。すると、私たちが受けている苦しみを耐え忍ぶことができますし、過去もその文字の通り、過ぎ去らせることができる、というものです。こうして、癒しが来るのです。天と地が一つになったエルサレムでは、いのちの木の葉が私たちをいつも癒やしているのです。

どうか、主にある正しい裁きの中に憩ってください。そこに究極の慰めの川が、永遠の慰めがいつまでも尽きることなく流れています。